

2023年9月15日(金) ハコラク10月号 掲載

医療の現場から『乳がん検診(マンモグラフィ)』

川合 美帆 診療放射線技師

乳がん検診(マンモグラフィ)



函館中央病院

診療放射線技師

川合 美帆 さん

皆様は定期的に健康診断を受けていますか？食生活の欧米化などのライフスタイルの変化により、日本人の乳がん罹患率は増加しています。年間8万人以上が乳がんになり、特に40歳代から罹患率が増えると言われていています。ステージ1の早期乳がんの10年生存率は95%ですが、ステージ4の進行乳がんの場合は27%まで下がってしまいますので、早期発見が重要となります。早期発見のためには定期的に検診を受けることが大

切ですが、日本の乳がん検診受診率は40%程度であり、依然として諸外国の70〜80%程度に比べて低いのが現状です。

では、なぜ検診受診率が低いのでしょうか？私は「マンモグラフィは『痛い』』というイメージが、受診を避ける理由の一つではないかと思っています。

マンモグラフィとは乳房専用のレントゲン検査のことをいいます。乳房を片方ずつ専用の板で挟み、圧迫

した状態で撮影します。この際、放射線技師の手で乳房をしっかりと広げた状態で固定するため、痛みを感じる方が多いと思いますが、この乳房を広げるという行為には大事な意味があります。

マンモグラフィの写真では正常な乳房は白く写ります。しかし、乳がんなどの腫瘍や石灰化も同じく白く写るため、見つけるのは容易ではありません。これらを見つめやすくするためには、しっかりと乳房を圧迫して広げ、乳房の重なりをなくすることが重要となります。さらに、圧迫することで、乳房の厚みが薄くなり、被ばくも軽減できます。

また、最新のマンモグラフィ装置は、痛みを軽減するような性能・デザインに改良されつつあります。

画像の善し悪しは放射線技師の技量に左右されます。私たちは苦痛を減らし、診断に適した画像を撮影できるように日々努力していますので、検査に対して不安を感じている方はお気軽にご相談ください。

この機会に、一度乳がん検診を受けてみてはいかがでしょうか。